

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)</p>	<p>プロジェクト目標「ホスピタリティ・介護職業訓練実施により、訓練修了生の就業・就職が促進される。」</p> <p>指標1：訓練コースが不都合なく実施される設備がある。 期待される成果の達成状況：設備が完成し必要な資機材が購入されて訓練コースが滞りなく実施される。 →初年度に施設、機材の設置は終了。2年次、3年次（今年次）に本格的に使用したが訓練コースに不都合は生じなかった。 指標2：NXTにトレーナー2名が養成される。 期待される成果の達成状況：トレーナー2名が養成される。 →初年度にトレーナー2名が養成された。2年次途中の2020年10月末に1名が辞職したが、ラオ・プラザホテルのベテラン従業員を採用したためプロジェクト最終時まで2名体制は維持できた。 指標3：各期20名（注）が初級コースに入学する。 期待される成果の達成状況：各期20名以上が初級コースに入学する。</p> <p>注：事業開始初年次（2019年策定）計画では各期20名としたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて関係機関の要請により3年次当初計画では密対策として各期定員を15名とした（3年次申請書4ページ）。しかし、研修生の募集先である5つの県・特別市教育局からの研修送り出しの要望が強く、改めて関係機関と協議して第2期、第3期、さらには事業期間を延長して受け入れた第4期ともに当初予定の20名定員となる数を受け入れた。このため指標を当初計画の定員20名として各期の達成状況を見る。</p> <p>→第1期生18名を受け入れ、最終的に15名が修了（3名は経済的な理由で退学） 注：20名に達しなかった理由は後述 →第2期生23名を受け入れ、最終的に22名が修了（1名は経済的な理由で退学） 【以下、今期分】 →第3期生22名を受け入れ、最終的に20名が修了（2名は経済的な理由で退学） →第4期生24名を受け入れ、最終的に23名が修了（1名は経済的な理由で退学） 計87名を受け入れ、最終的に80名が修了した。7名が経済的な理由（主に研修中に就職先が見つかったことによる）で中途退学した。</p> <p>指標4：就業率65% 期待される成果の達成状況：就業率が65%以上であること 研修修了後3カ月経過後の9月にモニタリングを行う第4期生を除く1～3期生の就業率は70.2%となっており、達成されている（詳細は後述）。</p> <p>このようにプロジェクト目標「ホスピタリティ・介護職業訓練実施により、訓練修了生の就業・就職が促進される。」の達成を図る指標1, 2, 3, 4が全て達成されたことによりプロジェクト目標は達成した。上位目標「地方の女性・青年の生計が向上し、経済的自立が促進され、貧困から脱することが出来る」ことにも本プロジェクトはプロジェクト期間を通じて大きく寄与したものと思慮される。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>【1～3年次の活動全体】</p> <p>→プロジェクト期間を4か月延長して事業開始当初の予定通りの4期分までの研修を実施</p> <p>・今年次は3か年事業計画の最終年度にあたり、ホスピタリティ研修（初級）3か月、介護（中級）3か月の1サイクル6か月の研修コースを2期、初級3か月のみの1サイクルを1期行い、計3期の研修を実施した。</p> <p>当初予定では、2020年3月から2022年3月までの2年間に初級3か月、中級3か月、計6か月の研修コースを4期実施する予定だったが、2年次（2020年3月～2021年3月）に新型コロナウイルスの影響により第1期の研修実施が6か月間遅れたことにより、今年次（第3期）までその遅れが影響し、当初予定の</p>

プロジェクト終了期の2022年3月1日までに3期分の研修しかできなかった。このため変更承認申請書を日本大使館に提出し、その承認を受けてプロジェクト終期を4カ月間延長して2022年7月1日までとし、第4期研修を変則的に初級3カ月のみで実施した。延長に伴う新たな予算措置は講じず、3年次予算の範囲を超える支出については当会負担で実施した。

【3年次】

ホスピタリティ・介護職業訓練コース実施  
訓練生募集（第3、4期生）

SNS告知板や県（都）の教育スポーツ局や郡教育スポーツ課を通して応募者を募った。

第3・4期生の各県の応募人数

	ルアン プラバーン県	シェン クワン県	チャン バサック県	ビエンチャン 特別市	ビエンチャン 県	その他 の県	計
第3期生	3	3	6	3	4	2	22名
第4期生	4	5	7	1	6	1	24名

【初級・中級コース訓練実施（第2期、第3期、期間延長を行い第4期）】

3年次は第2期及び第3期の初級・中級コースを実施した。さらに事業期間を4か月延長して第4期の初級コースを実施した。

実施時期	2021/3-5	2021/6-8	2021/ 9-11	2021/12-2022/2	2022/3-2022/6
実施期間	3ヶ月間	3ヶ月間	3ヶ月間	3ヶ月間	3ヶ月間
期	第2期		第3期		第4期
コース	初級コース	中級コース	初級コース	中級コース	初級コース
訓練参加者数	23名	22名	22名	21名	24名
訓練修了者数	22名	22名	21名	20名	23名

訓練の大まかな内容は以下の通り。

【第2期研修】2021年3月9日～8月31日

→オンライン授業の初導入、ラオスの職業教育訓練では初の単位認定

第2期研修を2021年3月9日から行い23名の研修生を受け入れた。うち1名は翌月のラオス正月休みに家庭の経済的な理由により退学し、最終的には22名が研修を修了した。

ラオスではCOVID-19の本格的な市中感染は、2021年4月中旬のラオス正月休み明けに発生し、4月22日から人の移動の制限や各種学校閉鎖令のようないわゆるロックダウン措置が講じられた。このため、第2期生は第1期生のように一時帰郷して自宅待機できず、寮に閉じ込められる形となった。このため5月4日から試験的にZoomを使って講師宅、寮の各部屋、NXTセンターを結んでオンラインでの授業に取り組み、7日から本格的なオンライン授業に切り替えた。ラオスの職業教育訓練ではオンラインによる授業の単位認定は認められない（郡教育課）とのことだったが授業を続ける傍らナーサイトン郡教育課、首都ビエンチャン教育・スポーツ局など関係機関に働きかけ、ビエンチャン市担当副局長も実際にオンライン授業に参加していただくなどしてオンライン授業も単位認定授業に認められた。おそらくラオスの職業教育訓練では初の認定と思われる。（注：大学教育ではオンライン授業が単位認定の要件と認められている。）学校閉鎖令が解かれた後の7月5日に通常の対面授業に戻した。

研修生の安全確保のために近くにあるナーサイトン郡病院の協力を得て研修生とス

タッフの COVID-19 集団予防接種第 1 回目を 6 月 18 日に受け、第 2 回目を 7 月 13 日に受けた。希望者が殺到する中で集団生活する研修生のクラスター発生防止の観点から優先的に接種を受けられた。

・ 3～5 月の 3 ヶ月間は、ホテル従業員になるための必要な研修を行った（初級）。具体的にはベッドメイキング、客室の清掃を中心に研修を行った。また、6～8 月の 4 カ月間はホテルに来る高齢者や障害者の介助を目的とした介護研修（中級）を行った。具体的には車いすや杖をついている人の介助、トイレの付き添い、寝たきりの方のシーツ交換、洗髪、食事・排泄介助を行い、さらには血圧や脈拍などのバイタルデータのとり方、人体模型を使った人工呼吸や A E D による救命救急措置、ケガの処置などを学んだ。

初級、中級の研修の合間にホテルが提供するような料理（卵料理など）についてラオ・プラザホテルの料理人を招致して断続的に計 10 日の研修を行った。そのうち、3 月 22 日に行った卵料理の研修とベッドメイキングの研修は、高崎経済大学の野崎教授の研究室の学生 9 名が野崎教授とともにオンラインで視聴した。昼食時には学生と研修生が直接質疑応答を行うなどして双方に刺激となる時間が持てた。

また研修終了時間後の放課後には、有志が集まり当プロジェクトスタッフがボランティアで先生となり英語教室を開催した。金曜日の午後はホームルームの時間として研修生の生活や学習態度に何か問題があれば寮長（元 N X T 長）が注意喚起を行い、特になければ歌やゲーム、ラオスの伝統的な行事で作る飾りなどを学んだほか、時々サッカーやバレーボールなどの体育も行った。

### 【第 3 期研修】 2021 年 9 月 13 日～2022 年 2 月 28 日

#### →オンライン授業の本格導入

第 3 期研修は第 2 期研修が修了し、2 期研修生が退寮した後に入寮して安全確認のために 10 日間ほど寮で生活。COVID-19 感染者がいないことを見定めてから 9 月 13 日に研修を開始した。しかし研修開始から 1 週間後の 9 月 20 日から本格的な都市封鎖となり、各種学校も政府の指示で休校となった。このため 9 月 21 日以降はオンライン授業で対応することとし、結局この措置は 11 月中旬に政府から密にならない対策を講じた場合に学校の再開を認める、との通達により 11 月 22 日から研修生の半分を教室に戻し、半分はオンラインで視聴するというハイブリッドオンライン授業を経て、最終的には 12 月 20 日から通常の対面授業に戻すまでの 3 か月間、オンラインでの授業が続いた。このため、オンラインでできる理論などの講義はホスピタリティ研修（初級）、介護（中級）ともに前倒しで行い、また、ハイブリッド研修ではベッドメイキングや介護などオンラインで見ている者も理解しやすいものを中心に組み立てた。しかし中間テストの結果を見ると対面で授業を行えた第 1 期、第 2 期に比べてオンライン研修のみだった第 3 期生は成績が極端に悪く、一方、1 週間の再研修後に行った再試験ではほぼ 1、2 期生の水準に回復し、職業技能教育における対面授業の重要性、オンライン授業の難しさが浮き彫りになった。講師陣に聞くと教室と違ってオンラインでは各人がどれだけ集中しているかを把握しにくく、また話した内容が伝わった、理解されたのかもわかりにくい、という声があった。

### 【第 4 期研修】 2022 年 3 月 9 日～2022 年 6 月 10 日

#### →通常の半分の期間（3 カ月）でホスピタリティ研修を中心に可能な限り介護研修を実施。

第 1 期研修の開始が COVID-19 により 6 カ月遅れたために第 2 期、3 期とも順次開始がほぼ 6 カ月遅れ、当初予定の 2022 年 3 月のプロジェクト終了時に 3 期までの実施しか見通せなかった。このため関係機関と協議して 3 年次の予算の範囲内で延長でき、かつ、ラオスの職業教育訓練で修了証を出せる期間ということで 3 カ月＋感染予防などの観点から 1 カ月間の猶予をもってプロジェクト終了時期を 2022 年 7 月 1 日に延長した。またこの時期になるとラオスはもちろん世界的にもワクチン接種が進み COVID-19 の終息が見えてきたため、ホテル業界からの人材募集の兆しが見えた。このため、第 4 期はホスピタリティ研修を中心としホテル業界への即戦

力養成を図り、可能な限り時間内に介護の研修を行った。

### 【2, 3, 4期共通事項】

#### ・寮生活

研修生は全員が訓練センター近くの寮（男女別）で生活を共にした。当会が日本の篤志家からの寄付金で設立した奨学金「チャンパー山の民奨学金」で全研修生に毎週15万kip（日本円でおよそ1,500円）を支給し食費などを賄った。夕食はたいてい野菜中心の唐辛子が効いた鍋料理であった。

#### ・ケガ、病気、事故

幸いにも研修生、講師ともケガや病気、事件や事故の被害等はなかったが、第4期生では研修開始時に4名、2022年4月18日のラオス正月休み明けに2名がCOVID-19（オミクロン株）に感染し、確保していた空き部屋に隔離するなど政府のマニュアルに則って対応し、全員が陰性に転じ感染の拡大を防いだ。また、6人いるスタッフも3名が2022年4～5月に感染したが、自宅待機の措置で済みそれ以上の感染者は出なかった。

#### ・研修生の募集活動

2021年7～8月に第3期生の募集を行った。また、2022年2月には第4期生の募集を行った。具体的にはホテル業が盛んな5つの県・特別市（シェンクワン県、ルアンプラバン県、ビエンチャン県、ビエンチャン特別市、チャンパサック県）の教育スポーツ局にトレーナー、現地スタッフ、プロジェクトマネージャーが手分けして訪問し、県～郡の教育局（課）を通じての募集依頼を行った。合わせてCOVID-19でほとんど閉店状態の各地のホテルに直接出向いて現況の聞き取り、今後の見通し、研修修了生の就職斡旋などを行った。

#### ・広報活動

初級、中級の開講式や閉講式には首都ビエンチャンの教育局副局長やナーサイトン郡の郡長などに列席いただくとともに新聞やテレビなどのマスメディアに積極的に声掛けをして紙面記事や電子記事を掲載してもらった。また、自らのホームページでもブログ記事などで情報を発信してプロジェクトを多くの方に知ってもらうように努めた。（関連写真と記事は別紙に添付）

### 【訓練修了生の就職・就業支援とモニタリング】

#### （第2期生）

→希望者を市内ホテルのインターンシップに送り出して就業に結びつけた。

研修修了前の1週間、第1期生はCOVID-19の影響でできなかったホテルでの実習を第2期生は行い、希望者8名が市内Red wood ホテル&レストランでインターンシップを経験した。2名が厨房スタッフとして雇用され、1名は両親に呼ばれて帰郷、1名は今も勤務している。

研修修了直前には、第2期生の就業斡旋を行い、上記Red wood ホテルや市内の別のホテル、レストランの従業員、外国人家庭のハウスキーパー、要介護者のいる家庭の介護人などの就業斡旋を行った。

#### （第3期生）

→ラオテル・ホテルで各人1週間のインターンシップ

1期生、2期生ともCOVID-19の感染拡大と予防接種が追い付いていない時期だったため、ビエンチャン市内（他の地域も同じだが）のホテルは外部からの人の受け入れを抑えたために、研修生全員が実際のホテルでのインターンシップを経験することができなかった（1期生は日本大使公邸や書記官宅、2期生は希望者のみに人数を制限して実施）。今期からラオテル・ホテルのご厚意により3期生を2つの組に分けてそれぞれ1週間のインターンシップを経験することができた。

#### （4期生）

第3期生同様、ラオテル・ホテルのご厚意により2組に分けてそれぞれ1週間のインターンシップを行った。

**【訓練スケジュール表・指導書の作成】**

第1, 2, 3, 4期訓練コース実施をして、研修講師、NXTトレーナーらが共同で「訓練スケジュール表・指導書」の作成を行った。成果物は冊子としてカウンターパート機関（ビエンチャン都教育局）に納め、現在、増刷している。

(3) 達成された成果

＜期待される成果＞

3. ホスピタリティ・介護職業訓練コース実施

3-1 訓練生募集 (第3, 4期生)

前述のように第3期生、第4期生の募集を行い、第3期生22名、第4期生24名の応募があった。

(再掲) 第3・4期生の各県の応募人数

	ルアン プラバーン県	シェン クワン県	チャン バサック県	ビエンチャン 特別市	ビエンチャン 県	その他 の県	計
第3期生	3	3	6	3	4	2	22名
第4期生	4	5	7	1	6	1	24名

3-2 初級・中級コース訓練実施 (第2, 3, 4期生)

前述のように研修期間を4か月延長したことにより、前年次からの6カ月の遅れをカバーでき、第2期、第3期、第4期の研修が実施できた。

ただし、第4期に関しては通常6カ月のところを3か月と半減し、ホスピタリティ研修を中心に介護研修を加えたものとした。

成果：SNS告知板やカウンターパートナーであるVEDを通して、以下の県および郡の教育スポーツ省を通して、ルアンプラバーン県、シェンクワン県、チャンバサック県、ビエンチャン特別市および県から訓練生募集を行う。NXTトレーナー2名、NXTコーディネーターと当会のプロジェクトマネージャーが協力して、第2期23名、第3期22名、第4期24名の募集を行った。

指標：修了テストで合格基準60%に達した10名以上の訓練修了生が育成される  
→第2期は22名、第3期は20名、第4期は23名が修了テストで合格基準を満たし修了した。テストによる落第者はいなかった。

3-3 訓練修了生の就職・就業支援とモニタリング

成果：訓練修了生の就職・就業が促進する。

指標：初級・中級コース修了生の65%以上が就業・就職する。

6月10日に研修を修了した第4期生は研修修了から時間が間もないこと、また就業しても安定しないことなどから研修修了3か月後の9月中旬に就業状況のモニタリングを実施する。

このため、第4期生を除く1～3期生計57名の就業状況は8月1日現在、就職待ちの人数は17名。40名は家業を含めて職に就いており就業率は70.2%となっている。これは当該団体が過去に行ってきた職業教育訓練（縫製、理美容、料理、木工）の就業率70%と同等の数字である。(下表)

**1～3期生の就業状況**

2022年8月1日現在

職場	1st	2nd	3rd	total

ホテル		Phonma(R.W.hotel) 注1		1
介護		Khamla(Old person care, Luangphabang)		1
食堂	Michai		Tany, Khamphone	3
ハウス キーパー		Lambo(French)+Online shop Snath(Relative house)	Douangdy, Not	4
店員	Khounkham(Nam warn), Kone(Rotaly)	Sabaithip(Rotaly), Khonmaly(Dress making)	Noud(game shop) Fon(kao pun) Nouphing(Retail)	7
家事手伝い	Aot(farm) Khetmany(Coffee farm), Malanee(Fish retail) Keoudon(Farm)	Aiavang(Retail), Lauthai(Orange farm), Chalsack(Bike repair),	Thai(farm)	8
その他	Noy (H/C trainees), Bouachanh (H/C trainee), Sythone(teacher)	Tik(UXO), Veota(Thailand), Thengphat(Thailand)	Vaendaeng(Thailand), Toumkham(Factory) Khampai(Factory)	9
進学		Souchai( Dongdok), Phouthasone(Law school), Thienxay(Law school), Hongkhame(high school)		4
待機(注2)	Chinda, Viengkhone, Davanh,	Viengkone, Soudalim, Panyphoune,Nouan, Orathai	Khamla, Bounthaen, Mapmi, Joy, Vilayvone, Jonny, Namwan, Amphaivone, Kai	17
結婚	Phaep, Phaengvanh	Outhaithong		3
計	15 ex-trainees	22 ex-trainees	20 ex-trainees	57

注1：各期に記載しているのは研修生の通称名

注2：「待機」としたのは、ここにいる17名のほとんどは一時期就業したが、家庭の事情でビエンチャンから郷里に戻されて離職したり、コロナの影響で就職先が閉鎖となり別の仕事を探している。8月1日現在ではほぼ全員が次の就職先のあてがあるが（本人談）コロナ禍が落ち着いてからの営業再開を待つなどの者が多くこのため待機とした。

2021年1～2月に第2期生の募集と併せてターゲットの5県・特別市の教育局、その地域で比較的規模が大きなホテルに直接出向いて第1期研修生の就業を要請した。新型コロナウイルスの感染拡大防止のために県境・国境措置の厳格化でこのホテルも閉鎖、もしくは開店休業状態の中、こうした努力が実ってチャンパサック県のコーンの滝近くにあるホテル（Pone Alina hotel）で1名、ホテル従業員の採用があった。ルアンプラバンのホテル（Sala Prabang hotel）では2名、チャンパサックのホテル（Paksong Daen Ngam hotel）では4名、計6名をまずはインターンとして採用してもらうことになった。期間は2021年3月中旬～4月中旬の約1

カ月)。残念なことにインターン終了時に2回目の都市封鎖(ロックダウン)令が発出されて、結局、別の仕事に就いた。ルアンプラバンの採用者も後にホテルが度重なる人の移動禁止令で閉店となり、転業を余儀なくされた。

このようにプロジェクト当初に想定していたホテル従業員への就職は観光業が壊滅的な状況となった2021年~今年前半では採用が見込めなかったため、各種人脈を使ってビエンチャン市内で高齢者の介護を家庭内で行っている方などをターゲットにして介護・介助者またはハウスマイドとしての就業先確保を図ったところ6件の問い合わせがあり、うち4名の就業が確保できた。ただし24時間休みなく続く家庭内介護のために現在も続いているのは1名のみとなっている。

さらに民間の職業斡旋所(website)を修了生に紹介して履歴書等の書き方を指導し、2名がビエンチャン近郊の工場勤務の職を得た。

初級、中級でそれぞれ成績1位の者は、当初予定通り2期生以降のアシスタント・トレーナーとして採用し、2021年3月からノンフォーマル教育センターのトレーナー養成コースを受講してトレーナーの資格を取得、2期生から4期生までの指導に当たった。プロジェクト終了後の7月からとりあえずカフェ・アマゾンに就業したがこれまでの経験を活かした職を見つけるまでのつなぎの職とのことである。

研修修了生の現況は、SNSのグループでモニタリングしている。また、そのグループにはホテルやハウスキーパーの募集情報を転載している。

#### 4. 訓練スケジュール表・指導書、施設管理マニュアルの作成

##### 成果：

『訓練スケジュール表・指導書』が制作される。

##### 指標：

各項目の履修内容と到達度が明確な『訓練スケジュール表・指導書』ドラフトが完成する。

担当スタッフがマニュアル、訓練スケジュール表、指導書を作成した。成果物は冊子としてカウンターパート機関(ビエンチャン都教育局)に納め、現在、増刷している。今後、類似のプロジェクト等が始まれば活用される。

##### 持続可能な開発目標(SDGs)から見た成果

→以下の開発目標、ターゲットに寄与した。

##### 【目標1】 ターゲット1.1

内陸国ラオスは、アジアで最も貧しい国の一つであり、一人当りの名目GDPは1,400ドル程度とASEAN諸国の中でも最下位クラスである。1.25ドル以下で生活する人々の割合は30.3%であり(2012年、国連MDG Indicator)、その多くが地方県の住民である当該年次は、研修生全員が村長が発行する貧困証明書(一定基準以下の収入の世帯)出身家庭であり、就業・就職促進を行った。ターゲット1.1に沿っている。

##### 【目標4】 ターゲット4.3及び4.5

海外の機関等が主にフォーマル職業教育(高卒者を対象とした職業教育で、日本の高等専門学校や短大にあたる)事業を支援しているが、当会はラオスにおいて20年以上のノンフォーマル職業訓練(学校へ通えなかった者を対象とする教育識字教育、初・中等教育コースから派生した職業訓練で、入学において小中高校卒資格を求めない)の実績を持つ。これまで当会が実施した職業訓練事業は、全てラオス政府にハンドオーバーされ、現在も持続運営されている。当事業も初・中等教育を十分に受けていない地方の少数民族の女性-青年を対象としたノンフォーマル教育の職業訓練であり、性別や学歴、社会的背景の区別なく参加し、技能・技術を習得することができる。従ってターゲット4.3及び4.5に沿った事業である。また当事業は、職業訓練生全員に奨学金を支給するが、事業終了後の持続可能性のためにラオス政府

	<p>への生活費・交通費等の申請を行うため、<u>ターゲット 4. b</u>に沿っている。</p> <p>【目標 8】<u>ターゲット 8. 6</u></p> <p>2015 年時点での、ラオスにおける中学校卒業率は未だ 60%程度であり、その割合は地方県では更に低くなる。フォーマル職業教育校へ入学するためには、高校卒業資格が求められるため、地方の貧しい若者にとっては、フォーマル職業教育を受けることは難しい。当事業は 15~40 歳の地方の女性・青年を対象にノンフォーマル短期職業訓練を実施し、就業・就職を促進するため、<u>ターゲット 8. 6</u>に合致する。<u>また雇用創出につながる持続可能な観光業を促進する政策立案の可能性にも関係するためにターゲット 8. 9にも沿っている。</u></p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>1. 施設建設・設備整備</p> <p>施設や機材に関してはナーサイトン郡職業訓練センターに徐々に管理を委ねてきた。プロジェクトで購入した資機材（消耗品は除く）に関してはリストを作成して 7 月 1 日のプロジェクト終了後にラオス側に引き渡した。</p> <p>事業実施運営および事業終了後の訓練施設・設備のハンドオーバー等について、カウンターパートである VED 及び NXT と協議し、覚書 (Memorandum of Understanding, MOU) を 7 月に締結した。</p> <p>2. 職業訓練トレーナーの養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NXT にホスピタリティ・介護トレーナーが 2 名養成され、NXT コーディネーターとともに、事業終了後も継続して訓練コースを実施・運営する。今年 10 月をメドに埼玉県の助成金を得て新たなホスピタリティ・介護研修を実施する予定。</li> <li>・養成したトレーナーのうち 1 名はもともと郡事務所の職員（元教員）であり、プロジェクト終了後、上記埼玉県の支援による新たな事業開始までの期間、引き続き N X T で現在実施中の調理、縫製、理美容の研修トレーナーとして勤務している。</li> </ul> <p>3. ホスピタリティ・介護職業訓練コース実施</p> <p>各県の教育スポーツ局への訓練生募集の体制を確立するとともに、事業実施を通してラオス全国に訓練センターの存在を周知させることで、事業終了後も安定した訓練生数を確保できるようにした。</p> <p>3 年次は当初予定通り年 2 回の研修サイクルの実施、カリキュラムや各種マニュアルの整備を行った。さらに 4 カ月間の延長措置を講じ、遅れていた 1 期分のうち初級（ホスピタリティ研修）3 カ月のみの研修を行った。これにより 3 年次には計 3 期の研修を実施した。これで通算 3 年 4 か月の事業期間中に 4 期の研修を実施し、修了した研修員も 80 名と当初計画を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、本研修事業で得た知見を基に新たな N 連事業を申請している。この申請が認められれば本研修事業に関わった人材を活用して継続性を維持する。</li> </ul> <p>4. 訓練スケジュール表・指導書、施設管理マニュアルの作成</p> <p>訓練スケジュール表・指導者及び施設管理マニュアルを作成して、現在は V E D が増刷作業を行っている。原本は NXT コーディネーターが管理する。</p> <p>5. 修了生の就労活動支援</p> <p>ラオスホテルレストラン協会など修了生のインターンシップおよび就労先斡旋に関する話し合いを行った。特にインターンシップの受け入れに好意的だったラオテル・ホテルは第 3 期生、第 4 期生全員のインターンシップを受け入れていただいた。残念ながら客足は回復していないために即採用には至っていないが、ホテル独自にインターンシップ修了証明書を各人に手交し、新たなスタッフの新規募集時には採用の際のアドバンテージとする、とのことである。</p> <p>また、関係したスタッフ、修了生共有の facebook グループを作成して採用情報などを共有するとともに、互いの近況を共有し互いにアドバイスあっている。</p> <p>6. 訓練センター及び訓練コース運営費の申請</p>

	<p>本事業では訓練生より授業料は徴収せず当会の奨学金「チャンパー山の民奨学金」で研修生の生活費を賄った。この奨学金および他の職業教育訓練に支給している「カノック奨学金」については引き続き寄付者を日本で募り、ラオス側が実施する職業技能訓練の研修生に支給する。また、事業終了後の訓練センター及び訓練コースの持続運営のために新規のN連事業を申請しており現在日本の外務省の審査待ちとなっている。</p>
--	--